

平成 27 年 11 月 30 日

平成 27 年度 校務改善推進事業発表会について（報告）

教育庁人事部職員課

1 日時 平成 27 年 11 月 12 日 午後 2 : 15～午後 4 : 45

2 場所 なかの ZERO 小ホール

3 内容

- 今年度の取組報告
- 事例発表（国立市立国立第二小学校・世田谷区立駒沢中学校・武蔵村山市教育委員会）
- 参会者と発表者・事務局による質疑・応答

4 参会者

- 348 名 （参考：平成 26 年度 341 名）
 - ・ 校長 114 名
 - ・ 副校長 99 名
 - ・ 主幹教諭 50 名
 - ・ 主任教諭 11 名
 - ・ 教諭 6 名
 - ・ 学校事務 49 名
 - ・ 教育委員会 19 名

5 事例発表の内容

（1）事例発表 1 国立市立国立第二小学校

「かっとで進める校務改善」

- ステップ 1 目標・目的の提示・説明
「子供の夢を育てる学校」、「自慢できる学校」をつくるために、校務改善を推進。
- ステップ 2 組織づくり・かたちづくり
 - ・ 「かさねる」… 同じ目的の仕事を重ねて、仕事の数を少なくする。
 - ・ 「つなげる」… 同じ活動をつなげて一つの活動にし、活動の数を少なくする。
 - ・ 「ととのえる」… 組織や方法を整えて、無理や無駄がなくなるようにする。
- ステップ 3 教師集団による新しい教育システムの構築
 - ・ 「子供にかかわる時間をもっと生み出したい」という教員の思いを実現させるために、各分掌を起点に改善策を提案。
- 成果
 - ・ どの子も落ち着いて学習に取り組める授業・学級の構築
→ 「夢を育てる学校」、「子供の自慢ができる学校」、「子供が自慢できる学校」へ

(2) 事例発表2 世田谷区立駒沢中学校

- 校長のモットー
 - ・ スピード感
 - ・ 情報の公開
 - ・ 評価の活用

} 信頼される学校
- 学校運営支援部
 - ・ 運営事務
 - ・ 学校評価
 - ・ 広報・校務 I T 支援システム管理
 - ・ 検定支援
 - ・ 地域活動
 - ・ N I E
 - ・ 若手教員 O J T
 - ・ 庶務
- 学校評価
 - ・ 年間 17 回のアンケートを実施・分析 → 即改善
- 成果
 - ・ 仕事が明確になった。
 - ・ 自分たちの職務の認識が高まった。
 - ・ 教員、事務主事、学校主事の一体感が高まり、組織が活性化した。
 - ・ 退勤時間が早まった。
 - ・ 学校運営が円滑で、効率よくなった。

(3) 事例発表3 武蔵村山市教育委員会

「市内全校で取り組む校務改善 ～学校と教育委員会の絆による取組」

- 武蔵村山市の教育課題
 - ・ 学力向上
 - ・ 体力向上
 - ・ 規範意識の醸成

} 学校と教育委員会が一体となった取組
- 学校事務の共同化

【概要】

- ・ 学校事務のうち、都事務が行う総務・人事・給与・福利厚生等を拠点校で集中的に処理する。
- ・ 学校事務室は、副校長及び教員の補佐をする。

【実施形態】

- ・ 拠点校に 4 人の都事務を配置。
- ・ 学校事務室に 1 人ずつ都事務支援員（一般職非常勤職員）を配置。
- ・ 7 校の学校事務を 11 人で行っている状態。
- 先生には、先生にしかできない仕事をしてほしい。
 - ・ 学校事務の共同化を導入する際、事務職員が言った言葉。
- 成果
 - ・ 副校長が人材育成をする時間を確保
 - ・ 教員が子供と関わる時間や教材研究する時間を確保
 - ・ 学校事務のチェック機能の強化
 - ・ 学校施設貸出業務の円滑化

6 参会者の感想について

- 資料 3 参照